週刊 福祉新聞
THE FUKUSHI SHIMBUN
2026年（令和8年） 10月27日 火曜日発行
定価年額2万2440円（送料・消費税込み）
福祉新聞社
〈本　社〉〒100-0013 東京都千代田区霞が関3-3-1 尚友会館1階 電話 03-3581-0431
〈関西支局〉〒541-0046 大阪市中央区平野町2-2-9-701 檸檬新報舎内 電話 06-6226-5596

「ろう文化、手話を広げたい」

8府省事務次官らに講演

聞こえない親を持つ子の新免さん

財務、文部科学、厚生労働、防衛省など8府省の事務次官らが参加して「ユニバーサル社会を創造する事務次官プロジェクト」が14日、法務省で開かれた。聞こえない親を持つ聞こえる子（CODA）の新免修就労継続支援B型事業所さんさんグリーン施設長（51）が講演した。

CODAはChildren of Deaf Adults の頭文字を取った造語。新免さんはろう者の両親、CODAの姉の4人家族で育った。近所に2組のろう家族もいたため日常に手話があり、ろう文化（玄関チャイムを鳴らすと室内ライトが光るなど）の中で暮らしてきた。

小中学校の三者面談では先生の話を母親に手話通訳し、新免さん自身が腹痛で病院に行った際も手話通訳をしなければならなかった。中学生の時には仕事を辞めたいという父親を、新免さんが思いとどまらせることもあったが、後に会社で父親がいじめられていると聞き、退職するため、学校を休んで父親の会社に付き添い、手話通訳したこともあった。

新免さんは30歳を過ぎて手話通訳士資格を取り、ろう者の相談員などもしてきた。CODAが親の手話通訳を担うことについて「手話通訳は簡単ではない。父親がいじめられていることを知った時はショックだった。こどもに負担がかかることもある」と話す。また「CODAはみんな手話がうまいわけではなく、日本語と日本手話は違うので日本語を話しながらの手話は苦手な人も多い」とし、CODAへの支援、学校の先生や医師などの理解、手話通訳士の派遣が必要だとした。

「CODAだから苦労もたくさんあった」と半生を振り返る新免さん。「手話ができるのは神様からの贈り物。ろう文化、手話を大切にしながら広げていきたい」と語った。

同プロジェクトは20年前に始まった。発案者の一人、竹中ナミ社会福祉法人プロップ・ステーション理事長は「さまざまな活動を知ってもらい、ユニバーサルな社会につながってほしい」と話した。（榎戸新）



講演した新免さん